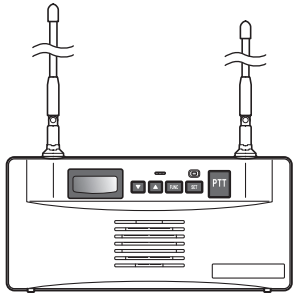
PS1046
FNFF-NG

特定小電力無線中継器/特定小電力トランシーバー
(総務省技術基準適合品)

DJ-P115R
取扱説明書

重要 本機は音声ガイダンス送信機能対応機です。そのため DJ-P113R や DJ-P114R のような別売外部マイク接続はできません。

アルインコの製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機は免許、資格不要の特定小電力無線機器です。日本国内なら誰でも用途を問わず、各種通信にお使いいただけます。本機の性能を十分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管してください。また補足シートや正誤表などが入っている場合は取扱説明書と合わせて保管してください。

アルインコ株式会社 電子事業部

東京支店 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888
名古屋支店 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目10番19号 サンエイビル4階 TEL.052-212-0541
大阪支店 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361
福岡営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目13番34号 エコービル2階 TEL.092-473-8034

アフターサービスに関するお問い合わせは
お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります
受付時間/10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日及び12:00～13:00は除きます)
ホームページ https://www.alinco.co.jp/ >事業案内>電子事業部 をご覧ください。

特定小電力の通信制限について

特定小電力無線機器の通信に関する制限事項を説明します。

3分制限(3分以上は連続で送信できません)

10秒前に警告音が鳴ります。通信時間が合計3分になると自動的に送信は停止します。

注意 3分の通信時間制限により自動的に通信が停止したあとは、約2秒間たたないと送信できません。

キャリアセンス(受信中は送信できません)

一定の強さ以上の信号を受信しているときはPTTキーを押しても送信できません。受信中にPTTキーを押すとアラーム音が鳴り、送信できないことをお知らせします。

付属品の取り付け方

付属品をご確認ください。

□ブラケット		□タッピングネジ	: 4個 (M3×16mm)
□ACアダプター	(EDC-122)	□電源延長ケーブル	: 5m
□ガイダンス送信ケーブル	(UX1656)	□取付けネジ	: 2個 (M3×3mm)
□保証書		□取扱説明書	: 3枚

注意 保証書にご購入の日付が記載されていないときは領収書やレシートを保証書といっしょに保管してください。ご購入日が証明できる書類がないと保証サービスは無効となりますのでご注意ください。

ACアダプターの取付け

付属のACアダプターを接続して電源供給します。また付属の電源延長ケーブルを使用して線長を5m延ばすことができます。

直接コンセントに挿すと電源が入ります。

電源延長ケーブル使用時

ブラケット(壁掛け)の取付け

すべての設定が終わってから作業してください。
①装着場所の壁面にタッピングネジが使用できることを確認します。
②あらかじめ下図を参考に卓上でブラケットと本機の勘合を確認します。ブラケットを本体上方向にスライドすると「カチッ」と大きな音がして固定され、下側の金属片を押さえて反対方向に引くと外れます。
③金属が見えるようにして位置を決め、プラスドライバー2番で付属のタッピングネジ4本でブラケットを壁に取付けます。
④ブラケットに本機を当て、下方向に「カチッ」と音がするまでスライドさせて固定します。しっかりと固定されたことを念入りに確認してください。
⑤外すときは下側の金属片を壁方向に押しながら本機を上にスライドさせます。

注意
・ブラケットの設置不良に起因する落下は製品保証の対象外です。事故や故障の原因にならないよう、十分にご注意ください。付属のネジ以外の使用も自己責任です。径や長さが違うと本機やブラケットの故障の原因となります。取付けにかかる費用は製品に含まれません。
・ブラケットは天地無用で設置し、天井には設置しないでください。本機が落下するおそれがあります。

ブラケット勘合位置

機能と特徴

・交互通話専用の屋内設置型レピーター
・中継中の音声が聞こえるモニターと中継チャンネルでの送信に対応
・交互・交互中継子機対応のトランシーバーモード
・停電時でも安心なバックアップ・バッテリー(バッテリー:EBP-60)
・小型・コンパクト・軽量で設置が簡単

充電方法 ※オプション品:EBP-60が必要です

別売のバッテリーパックを停電時の非常用電源としてお使いになれます。
●バッテリーパック:EBP-60 (Li-ion 3.7V/1200mAh)

①ロックレバーを矢印方向へスライドさせて電池カバーを手前に引いて外します。
②バッテリーパックの突起部を上にしてケース内に入れ、軽く下方向に押し込みながら奥に押して止めます。その後電池カバーを元に戻します。

③付属のACアダプターを図のように電源端子とAC100Vコンセントへ接続すると充電が始まり、バッテリーマークが点滅します。
④充電が完了するとバッテリーマークが点灯します。

◆バッテリーパック運用時間の目安◆
半複信中継:10時間

注意 本機を長時間使用しないときはACアダプターとバッテリーパックを取外して保管してください。保管方法は別紙の「安全上のご注意」をお読みください。

[参考]
災害時などでAC電源の復旧の遅れが運用の支障になるときはバッテリーパックの予備をご用意ください。

メモ 空のリチウムイオンバッテリーを満充電するのに要する時間は約3時間です。充電は周囲温度が0℃～+45℃の屋内でおこなってください。清掃と点検をしても充電できないときは販売店か弊社サービスセンターにご相談ください。

使用前のご注意

別紙の「安全上のご注意」を必ずお読みください。本書に記載していない重要な安全上、使用上の注意点と免責事項についてご説明しています。

■ ご使用環境

高温、多湿、直射日光が当たり続けるところは避けてご使用ください。
本機は防塵防水ではありません。濡れた手や水回りでの使用時は十分ご注意ください。厨房などの油気も表面劣化や故障の原因となります。

■ 分解しないで

特定小電力無線機器の改造、変更は法律で禁止されています。分解したり内部を開けたりすることは絶対にしないでください。

■ 使用禁止場所

本機は総務省技術基準適合品ですが、使用場所によっては思わぬ電波障害を引き起こすことがあります。次のような場所では使用しないでください。
(航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、中継局周辺)

本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。
This product is intended for use only in Japan.

■ 通信距離の目安

中継器を介しての通話距離は同じ長さのアンテナの無線機同士の交互通話と比較すると下記のようになります。また距離だけでなく不感エリアの解消に効果的です。
・半複信中継:距離で2倍程度

無線機(トランシーバー)として通話できる距離は周囲の状況や取り付け方によって大きく異なります。
・河川敷など障害物がない平地、見通しのよい道:500m～1km程度
・市街地や住宅街など障害物が多い所:200m程度
・店舗などの建屋内:100m程度

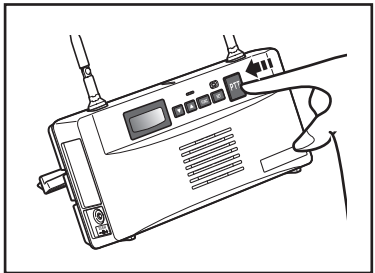
注意 トンネルのような閉鎖空間ではUHF電波伝搬の特性により近距離でも通話できないことがあります。

■ グループトーク機能の相性

他社製や弊社の旧製品とグループトーク設定すると、通話できないことがあります。使用するトーン信号の精度に関する相性で異常ではありません。2～37番の間でグループ番号を変えてみてください。

ブラケット(立て掛け)の取付け/取外し

●ブラケットの取付け方
①ブラケットの金属がある面を上にして図のように背面のスリットに合わせます。
②わずかに斜め上方向に向かって「カチッ」と音がして止まるまでブラケットを押し込みます。
③安定した水平の台に置きキー操作して、がたつきがないか確認します。正しく止まっていないとブラケットが外れて転倒し、故障の原因となります。

●ブラケットの取外し方
本機をしっかり手で持って、ブラケットを左右に動かすように軽く振ると簡単に外れます。まっすぐ引き抜こうとすると勢い余って本機やブラケットを落下させる危険があります。

注意 このブラケットは頻繁に着脱することを念頭に設計されたものではありません。繰り返していると勘合がゆるくなりますが不良ではありません。

重要
・別売のバッテリーパックはリチウムイオン式です。安全装置を内蔵しておりますが、発火のリスクを取り除くことはできません。

・直射日光に当たる場所に本機を設置すると、内蔵の電池が熱くなり発火の危険があります。冬場でも閉め切った部屋の窓際や車内のダッシュボードは日光が当たれば高温になることがあります。絶対に避けてください。

・バッテリーパックが膨れていないか、定期的に点検してください。膨れたものは電池回収協力店で廃棄して、新しいものにお買い換えください。

・バッテリーパックは正しく使っても劣化します。3年を目安に長くても5年以内にお買い換えください。

ディスプレイとランプ

ディスプレイの表示

X リセットの全点灯時に表示されますが、本機では使用していません
① FUNCキーを押すと点灯
② 秘話設定時に点灯
③ コンパンダー設定時に点灯
④ ベル設定時に点灯
⑤ VOX設定時に点灯、ガイダンス送信機能時に点滅
⑥ バッテリーパック使用時や充電時に点灯、点滅
⑦ チャンネルやグループ番号、セットモード項目を表示
⑧ キーロック中に点灯
⑨ バッテリーセーブ停止時に点灯
⑩ 交互通話のトランシーバーモード時に点灯
⑪ 送信出力のLo設定時に点灯
⑫ 中継器モード時に点灯 ※中継子機設定時は⑩と⑫が点灯
⑬ 中継器リモコンモード時に点灯
⑭ 受信中に点灯
⑮ 送信中に点灯 ※中継中は⑭と⑮が両方点灯
⑯ 通話モード番号、周波数帯を表示

ランプの色

青色点灯:受信待受け中
緑色点灯:受信中
赤色点灯:送信中

各部と名前とはたらき

前面

アンテナ
回転しますが、外れない構造です。
※垂直にまっすぐ立てお互いに近づけないようご注意ください。

△(アップ)キー
音量を上げるときに押します。

▽(ダウン)キー
音量を下げるときに押します。

ディスプレイ
動作状態を表示します。

スピーカー

電源端子
ACアダプターを接続します。

マイク
送信のときに話します。
※マイク穴をふさがないようにご注意ください。

ランプ
動作状態を表示します。

PTT(送信)キー
送信中は押し続けます。

SETキー
グループトーク機能のオン/オフに使用します。

FUNCキー
グループ番号の切替に使用します。

背面

ロックレバー
バッテリーパックの取付け/取外しに使用します。

UX1656接続端子
ガイダンス送信機能で使用するケーブル(UX1656)接続端子です。ガイダンス送信機能のご使用方法は「DJ-P115R ガイダンス送信機能」取扱説明書をご参照ください。

QRコード
スマートフォンなどで読み取り弊社ホームページの取扱説明書を参照することができます。

基本操作

本機は半複信中継器または無線機（トランシーバー）としてもお使いになれます。それ以外の詳細は本機背面のQRコードを読み取って開ける詳細説明書に記載しています。同じ説明書を以下のリンク先に掲載しています。

https://www.alinco.co.jp/ 「 製品情報 > 通信技術 > ダウンロード > 特定小電力無線機 」

キー操作
「キーを押す」はしっかり押した後、すぐに離すことを指します。
「キーを長押し」は約2秒間押し続けることを指します。

電源を入れる
電源スイッチはありません。ACアダプターを電源端子とAC100Vコンセントに接続すると電源が入ります。電源を入れた後、約10秒間はリモコン設定モードで待受けます。そのまま待つかディスプレイに「rEmCon」表示中にPTTキーを押すと設定モードが解除され、前回終了時の状態で起動します。

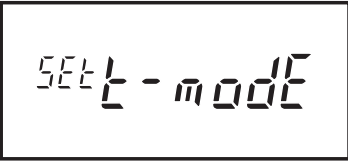
音量を調整する
受信・待受け時に△/▽キーを押すと30段階の調整ができます。押し続けると連続して切替わります。初期状態は0で音は一切しません。設定操作中は音量を上げてください。説明文中のビープ音等が聞こえません。設定後は用途に応じて音量設定してください。（通話音をモニターしないときは0）

通話モード

通話モード	チャンネル	番号
半複信中継器	L10~L18、b12~b29（27チャンネル）	r1（初期設定）
交互通話	L01~L09、b01~b11（20チャンネル）	1
半複信中継子機	L10~L18、b12~b29（27チャンネル）	5
デュアルオペレーション	L01~b11、L10~b29（47チャンネル）	7
最適チャンネルサーチ	L01~b11、L10~b29（47チャンネル）	8

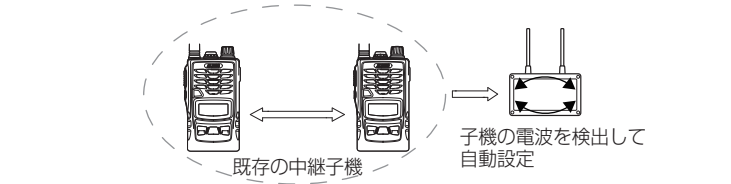
デュアルオペレーションと最適チャンネルの詳しい説明は弊社ホームページをご覧ください。

https://www.alinco.co.jp/ 「 製品情報 > 通信技術 > ダウンロード > 特定小電力無線機 」

通話モード設定
SETキー押しながら電源を入れるたびにディスプレイに「SEt t-modE」が表示され、△キーと▽キーで通話モードを切替えられます。PTTキーを押して設定したいモードを選んでください。

半複信中継器と子機の設定と操作
本機には手動のほかに、設定済の子機があればその信号を検知して自動設定するACSHを使用して、簡単にチャンネルとグループトーク番号を設定できます。

チャンネルとグループトーク番号の設定
すべての中継器・子機を同じチャンネルとグループトーク番号に合わせます。グループトークは番号が合致しない別ユーザーの信号を中継させない機能です。01番と50番は多用されるので避けてください。

①電源を入れ、待受け状態にします。
②SETキーを押しながら△キーまたは▽キーを押すとチャンネルが選択できます。L10は多用され混信しやすいので別の番号をお勧めします。
③SETキーを押します。チャンネル番号の後に－01 が表示されます。
FUNCキーを押しながら△キーまたは▽キーを押して番号01～50を選択します。何もしなくても、指を離すと設定が完了します。
設定後は後述のキーロックを掛けてください。

ACSH（アクシュ）モード
半複信中継用子機があれば本機のチャンネルとグループトークを自動設定できます。既存の中継器の入れ替え以外に、新規で設置するときも子機を1台作ればACSHさせることができます。

・自動設定中は電源を切らないでください。電源を切ると自動設定せずに停止します。
・ACSHモードを起動し本機が電波を検出しているときは、子機側のマイクから音声が入らないようにご注意ください。電波が乱されて正常に判定できないことがあります。
・弊社製も含む多機能機種には一部中継周波数帯の切替ができるものがありあります。意図的に中継器の周波数帯をA（弊社製機種の子機設定3B）に設定していると自動設定できません。

注意
・グループ番号の検出時、トーン周波数が近いものは動作が不安定になったり、誤判定することがあります。（例：01番 67Hz、39番 69.3Hz）
数回試してみても誤判定する場合は、グループ番号を01～38番の範囲に設定してご使用ください。
・自動設定後は簡易キーロックがかかり、各種キー操作でのチャンネルやグループの変更はできません。変更する場合は簡易キーロックを外し、手動設定を行うか、後述のリセットをしてください。その場合自動設定した内容は消去されますので、ご注意ください。

① 子機側の説明書を読んで中継チャンネルとグループ番号を設定した子機を１台作ります。弊社製でモード番号設定があるものは子機の通話モードを「３A」にします。
② 準備ができたらSETキーを押し続けながら、ACアダプターを接続し電源供給します。いったん電源が入りますが、SETキーを離さずにそのまま７秒間押し続けます。
③ ディスプレイに「ACSH」表示が点滅し「ピピピピピ」と音が鳴ったらSETキーを離して、子機側の送信（PTT)キーを押します。
④ PTTキーを押したまましばらく待ちます。（最長2分程度）子機の信号を検知すると「ピピ」音が鳴り、ランプが緑色点灯します。設定が終わると「oooACSH」と表示し「プルル」音が鳴り自動で再起動します。
⑤ 起動後は簡易キーロックがかかります。次の動作確認をしてください。

[動作確認]
正確な動作確認は2台の設定済子機と使用者2名で行います。2台で異常がなければ、他の子機も同様に動作確認してから運用してください。

①イヤホンマイクを装着する、ボリュームを上げるなど運用状態にした子機の電源を入れます。一人は少なくとも中継器から１０m以上離れます。電波障害で通話しにくくなることがあるためです。
②一人が子機のPTTキーを押したままにして送信します。弊社製であれば1秒ほどすると子機がピピと鳴ります。中継器へのアクセスができた合図ですからマイクに向かって「ただいまテスト中」のように話します。
③中継器はボリュームを上げていればピピ音が鳴り、受信中の音声が聞こえます。中継中はランプが赤色に点灯し、送受のアイコンが表示されます。
④別の子機は送信中の信号を受信して相手の声が聞こえます。
⑤送信している人は「テスト終了」のような合図を送り通話を止め、PTTキーを離します。信号が途切れてすぐ、もう一人がPTTキーを押して応答するとピピ音は鳴らず、すぐに通話できます。しばらく経ってから送信するとアクセス確認のピピ音が鳴ってから中継します。ピピ音を待たずに話し出すと通話の初めが途切れて聞こえるので一呼吸置いてから話しをするよう心掛けてください。

半複信中継器について
直接では電波の届かない相手と通話するときのモードです。対応する子機が必要です。本機は１台だけ使います。通話モード番号ｒ１ｂ、チャンネルとグループトーク番号は子機と同じに合わせます。他社製の子機は下記の理由でお使いになれないことがあります。

・中継動作のタイミングが異なるなど、設計上の違いがあります。同時・交互無線連結の中継はできません。
・中継ＣＨは送信専用と受信専用の2つの周波数のペアで構成されています。弊社では子機の送信をA側、中継器の送信をｂ側に割り当てています。

チャンネルやグループは中継器も子機もすべて同じ

交互通話について
別のトランシーバーと直接通話するモードです。通話モード番号1、チャンネルとグループトーク番号は通話相手と同じに合わせます。

半複信中継器子機について
中継器にアクセスして子機として通話するトランシーバーモードです。通話モード番号５Ａ、チャンネルとグループトーク番号は通話相手と同じに合わせます。

送信・受信
本機は中継器モードでもトランシーバーと同様に送受信できます。
ランプが青色灯時、PTTキーを押したままマイクに向かって話します。ディスプレイに 送 が表示されランプが赤色点灯します。キーを離すと待受けに戻ります。交互通話トランシーバーと同様の操作です。
中継送信中（送受 表示、ランプ赤色点灯）にPTTキーを押すと、中継中の音声に割り込んで送信できます。受信側は2人の声が混じって聞こえますが、送信側は割り込まれていることは分かりません。
割り込み送信中は、中継中の音声は聞こえません。（ハウリング防止）

半複信中継子機モードで受信（受 表示、ランプ緑色点灯）時は送信できません。受信終了時の「ザッ」音を低減するテールノイズキャンセラーを採用しています。弊社製の対応機間での通話時に有効です。

呼出音（コールトーン）
送信中に△/▽キーを押すと呼出音を鳴らして相手の注意を引くことができます。

キーロック操作
設定が終わり、運用状態になったら設置の前に必ずキーロックを掛けてください。誤操作を防止します。

[簡易] 第三者が触れない場所に設置するときに推奨
FUNCキーを長押しすると「LoC-1」が点滅した後「O-π」が点灯します。同じ操作で解除できます。ACSHモードではこれが自動設定されます。

[通常] 第三者が触れる可能性があるときに推奨（解除されにくい）
FUNCキーとSETキーを同時に長押しすると「LoC-2」が点滅した後「O-π」が点灯します。同じ操作で解除できます。
ACSHしたときは前項の操作で先に簡易キーロックを解除してください。

セットモード
中継器モードと無線機（トランシーバー）モード用のセットモードが２つあり、通話モードの設定により表示される項目が変わります。
①キーロックがかかっていれば解除してください。
②FUNCキーを押したまま素早くSETキーを押し、すぐに指を離します。
③ディスプレイにローマ字表記が表示したら、セットモードに入っています。
④SETキーを押すと次項目へ、FUNCキーを押すと前項目へ移ります。
⑤△キーや▽キーで設定値を変更できます。
⑥PTTキーを押すと設定値を確定し、受信待受けに戻ります。

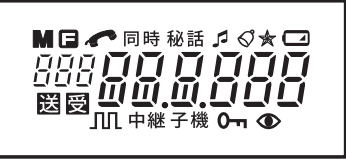
注意 FUNCキーだけを押し続けているとキーロックがかかるのでご注意ください。キーロックは同様の操作で解除できます。

セットモードの詳しい説明は弊社ホームページをご覧ください。

https://www.alinco.co.jp/ 「 製品情報 > 通信技術 > ダウンロード > 特定小電力無線機 」

種別	セットモード	機能	項目	初期値
中継器	b rPt-CH	中継親機チャンネル周波数帯	b/A	b
	oFF ALm	中継アラーム	on/oFF	oFF
	0 HunGuP	中継ハングアップ	0/05/1/2	0
	on2 Auto	中継自動接続手順	oFF/on1/on2	on2
無線機	A Unt-CH	中継子機チャンネル周波数帯	A/b	A
	oFF ComPnd	コンパンダー	on/oFF	oFF
	oFF ScrbLE	秘話	on/oFF	oFF
	oFF bEEL	ベル	on/oFF	oFF
	5 LAmP	ランプ	oFF/5/on	5
	on Led	LED	on/oFF	on
	oFF PttHLd	PTTホールド	on/oFF	oFF
	Pow-Hi	送信出力	Hi/Lo	Hi
	oFF vo	VOX	oFF/Lo/Hi	oFF
	3 Sd-voL	操作音量	0~5	3
	on Sound	サウンド	on/oFF	on
	oFF EndP	エンドピー	oFF/on/PP	oFF
	on Ptt	PTTオフ	on/oFF	on
	ACH Set-bt	SETキー割り当て	ACH/bCH/EG/Scn	ACH

減電池お知らせ
停電時のバッテリーパック運用中にバッテリーの電圧が低下するとランプが青色点滅してお知らせします。AC電源が復旧していないときはスペアのバッテリーパックに交換してください。

リセット（初期化）
電源端子に接続したプラグを外し、FUNCキーを押したまま再接続します。電源が入り、ディスプレイが全点灯し初期化されます。完全に初期化する場合はFUNCキー、△キー、▽キーを押したまま電源を入れます。拡張設定も含めてリセットできます。

故障とお考えになる前に

症状	原因	処置
電源が入らない	電源が供給されていない	ACアダプターを正しく接続してください
中継器の通話ができない	設定モードに入っている	電源供給後約10秒ほど待ってからお使いください。
	設置場所が適切でない	注意点を確認の上、適切に設置してください
	各機器の通信距離が離れている	電波が届く距離に設置してください
音が出ない 受信できない	音量が低すぎる	適切な音量にしてください
	相手とチャンネルが違う	同じチャンネルにしてください
	相手とグループ番号が違う	同じグループ番号にしてください
	相手と距離が離れている	通信距離を目安に送信してください
送信できない	電波を受信している	電波がなくなってから送信してください
	3分通信制限を超過している	PTTキーを放して2秒経過後に送信してください
充電できない	端子が汚れている	端子の汚れをふき取ってください
	充電池が劣化している	新しい充電池に交換してください

・充電池の残りが少ないと誤動作することがあります。その場合は電源端子のプラグを再接続するか充電してください。本機を分解すると技術基準適合から外れ、それを使うと不法無線局となり処罰されます。メンテナンスや修理は販売店か弊社サービスセンターにご相談ください。

生産終了品に対する保守年限

生産終了後も5年間は補修用部品を在庫しています。不測の事態で欠品した場合には保守ができなくなることがありますのでご了承ください。

オプション一覧

EBP-60　リチウムイオンバッテリー（3.7V/1200mAh）
EDC-122　ACアダプター　（付属品のスペア）

※重要:音声ガイダンス送信対応のため、イヤホンマイク、スピーカーマイク、ヘッドセットなどのマイク類はお使いになれません。オプションのPTTキーが反応しない、送信音声が極めて小さくなるなどは仕様です。

定格

送受信周波数 (A)(b)は 中継CHの送信 周波数	Lチャンネル	421.8125~421.9125MHz（b）
		422.2000~422.3000MHz
		440.2625~440.3625MHz（A）
	bチャンネル	421.5750~421.7875MHz（b）
		422.0500~422.1750MHz
		440.0250~440.2375MHz（A）
制御チャンネル	422.1875MHz、421.8000MHz、440.2500MHz	
電波型式	F3E（FM）、F1D（FSK）	
送信出力	10mW、1mW	
受信感度	－14dBu（12dB SINAD）	
音声出力	3W以上（本体スピーカー：4Ω）/400mW以上（外部出力）	
通信方式	単信、半複信	
定格電圧	DC 6.0V（DC IN）/ 3.7V（Li-ion）	
消費電流	送信時：75mA（High）、65mA（Low） 受信最大出力時：1.5A 受信待ち受け時：83mA バッテリセーブ時：28mA	
動作温度範囲	－10℃～+50℃（充電：0℃～+45℃）	
寸法	高さ94.5mm×幅200mm×厚さ50.4mm（突起物除く）	
重さ	約352g（ACアダプター除く）	

・仕様、定格は予告なく変更する場合があります。本書の説明用イラストは実物とは字体や形状が異なったり、一部の表示を省略している場合があります。本書の内容を無断転載することは禁止されています。乱丁、落丁はお取り替えいたします。

メンテナンス
本体は家電清掃用ブラシなどでほこりを落とし、清潔な布で乾拭きしてください。ACアダプターのケーブルやブラケットなど樹脂類は劣化したら新品に交換してください。ショートによる火災や落下事故の原因となります。本体を分解しないで交換できる部品は販売店にご注文ください。
アルインコインカムショップでも承ります。https://alinco-incom.com/

DJ-P115R セットモードについて

DJ-P115R 特定小電力中継器は、各種機能を用途に合わせてより使いやすくするためにカスタマイズすることができます。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない、中継器・無線機の基本設定の詳細をご説明します。

*文中のローマ字はディスプレイの表示、「設定値」は変更や設定ができる内容、「初期値」は出荷時の設定です。

セットモードの操作

・キーロックがかかっていればかけたときと同じ操作で解除（通常の簡易ロックはFUNC長押し）します。
・[FUNC]キーを押したまま[SET]キーを押すとローマ字表示が出て、[SET]キーを押すごとにメニュー項目が切り替わります。ローマ字表示に変わったら指を離しても構いません。[FUNC]キーだけを必要以上に長く押しているとキーロックが掛かるのでご注意ください。(同じ長押しで解除できます)
・[▼][▲]キーでメニュー内の設定値を選択します。
・[SET]キーを押すと今の設定値を保持して次のメニュー、[FUNC]キーを押すと前のメニューが選べます。
・設定が済んだら[PTT]キーを押します。すべての設定値を更新して運用画面に戻ります。機能によってはオン状態を示すアイコンが表示されます。

中継器セットモード一覧

中継器モード(通話モードr1)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b
2	中継アラーム	oFF ALm	oFF/on	oFF
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2

無線機セットモード一覧

無線機モード(通話モード1、5、7、8)時にカスタマイズできる項目です。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値
1	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A
2	コンパンダー	oFF ComPnd	oFF/on	oFF
3	秘話	oFF ScrbLE	oFF/on	oFF
4	ベル	oFF bEEL	oFF/on	oFF
5	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5
6	LED	on LEd	oFF/on	on
7	PTT ホールド	oFF PttHLd	oFF/on	oFF
8	送信出力	Pow-Hi	Hi/Lo	Hi
9	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF
10	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3
11	サウンド	on Sound	oFF/on	on
12	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF
13	PTT オフ	on Ptt	oFF/on	on
14	SET キー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH

中継器セットモード

1: 中継親機チャンネル周波数帯「rPt-CH」

設定値 b / A（初期値 b）

半複信中継器(通話モード r1)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、混信を減らすような特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

A に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「r1b」 表示が「r1A」表示になります。使用する子機の周波数帯設定は全て b 側にします。あまり必要性が無いので、弊社製の機種の多くはこの変更に対応させていません。

2: 中継アラーム「ALm」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）

半複信中継器(通話モード r1)で中継動作の終了をアラーム音でお知らせします。アラーム音が鳴っている間に信号を受信すると中継動作を継続します。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、通話がスムーズに感じられる反面、音が煩わしく感じられることもあり、実験してから好みに合わせて設定してください。

3: 中継ハングアップ「HunGuP」

設定値 0 / 0.5 / 1 / 2 秒（初期値 0）

半複信中継器(通話モード r1)で受信信号が途切れても一定時間送信を継続する機能です。中継器が初期状態に戻るまでの時間が長くなり、スムーズに感じられることがあります。実験してから好みに合わせて設定してください。

4: 中継自動接続手順「Auto」

設定値 oFF / on1 / on2（初期値 on2）

半複信中継器(通話モード r1)、半複信中継子機(通話モード 5)で中継動作自動接続手順（Auto Kerchunk）を解除する機能です。接続タイミングの異なる旧製品や他社製中継器へのアクセスに有効な場合があります。通常は初期状態の「on2」でお使いください。

無線機セットモード

1: 中継子機チャンネル周波数帯「Unt-CH」

設定値 A / b（初期値 A）

半複信中継子機(通話モード 5)のときに送受信する周波数帯を入れ替えます。無線のことをよく知る管理者が、混信を減らすような特定の目的をもって変更するためのものです。弊社製の中継器、トランシーバーを通常設定でお使いになるときは変更しないでください。標準で自動的に適切な組み合わせになります。弊社製品の中にはこの変更に対応できない機種もあります。

b に変更すると半複信中継器のとき、ディスプレイ左上の「5A」 表示が「5b」表示になります。使用する中継器の周波数帯設定は A 側にします。あまり必要性が無いので、弊社製のトランシーバーの多くはこの変更に対応させていません。

2: コンパンダー機能「CmP」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）　※ON 時のアイコン：「♫」

コンパンダー機能を ON に設定すると、通話中、音声が無いときに「サー」と聞こえるかすかなバックノイズを低減することができます。

※コンパンダー機能のないトランシーバーと通話する場合には必ずOFF にしてください。逆に音質が悪くなることがあります。

※他社製の特定小電力トランシーバーでもコンパンダー対応機であればON でお使いになれます。

※中継通話で子機のコンパンダーを ON にしていた場合、中継器のコンパンダーは OFF でも子機間の通話は問題ありませんが、DJ-P115R を「割り込み送信」させるようなときは音質が悪くなることがあるため、子機と本機の中継時のコンパンダー設定は同じにしてください。

3: 秘話機能「ScrbLE」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）※ON 時の表示 :「秘話」

ON にすると、設定していないトランシーバーで受信したときに「モガモガ」と濁った音になり、通話内容が聴き取れなくなります。同じ機能（スクランブルとも言います）を搭載した弊社製トランシーバーであれば、機種が違っても通話できます。

※本機能のセキュリティレベルは非常に低いものです。秘密の通信に使えるレベルのものではありません。秘話設定の声に違和感があるときは、拡張セットモードで秘話周波数設定が変更されている可能性があります。拡張セットモードの説明は本書と同じダウンロードコーナーでご覧になれます。

※弊社の旧機種や他社製品の秘話と混用した時は通話内容が聞き取りづらくなったり使えなくなったりすることがあります。

※中継通話、グループトークでもお使いになれますが、音質が変わることがあります。

※中継通話で子機の秘話を ON にしていた場合、中継器の秘話設定は OFF でも子機間の通話は問題ありません。DJ-P115R を「割り込み送信」させるときは音質劣化が起きないよう、親・子機全てに同じ秘話を設定してください。

4: ベル機能「bELL」

設定値 oFF / on（初期値 oFF）※ON 時のアイコン :「🔔」

呼び出されたことをベルアイコン表示とベル音でお知らせします。

※着信すると 10 秒間ベル音が鳴ります。何かキー操作をすると止まります。キー操作するまでベルアイコンが点滅して、着信があったことをお知らせします。

※一度お知らせしたら、待ち受け状態が約 10 秒以上続くまで動作しません。（テキパキ通話している間はベルがいちいち鳴ると通話の邪魔になります。）

※グループトーク設定時は、グループ番号が合わない信号を受信しても動作しません。

5: 液晶ランプ機能「LAmP」

設定値 oFF / 5 秒 / on（初期値 5 秒）

液晶ディスプレイの照明を点灯させる機能です。初期状態では「5」秒に設定されており、キー操作（[PTT]キー以外）をすると自動的に 5 秒間照明が点灯します。

※ディスプレイ照明を ON（常時点灯）に設定すると、オプションバッテリー使用時のバッテリーの消耗がとても早くなります。AC アダプター使用時以外は ON にしないでください。

6: LED ランプ機能「LEd」

設定値 oFF / on（初期値 ON）

動作状態を表示する LED ランプ（青色 : 待ち受け、緑色 : 受信、赤色 : 送信）の ON/OFF を選択できます。無線機と中継器モード両方に反映されます。

OFF にするとわずかに電池の持ちは良くなりますが、液晶の照明をオフにするような効果はありません。
設定が済んだら見なくて良いので中継器モードではオフにしても良いですが、トランシーバーとして使うときや設定を変更するときは点灯するほうが便利です。

7: PTT ホールド機能「PttHLd」

設定値 oFF / on / （初期値 oFF）

[PTT]キーを一度押すと送信状態を保持、もう一度[PTT]キーを押すと受信状態になります。送信中[PTT]キーを押さなくて良いハンズフリー状態にできます。

8: 送信出力設定「PwL」

設定値 Hi / Lo（初期値 Hi）※Lo 時のアイコン：「.（ドット）」
送信出力を変更できます。

Hi ： 10mW 出力
通常の設定です。理由が無い限り変えないでください。設定を変えてもバッテリーの持ちは大きく変わりません。

Lo ： 1mW 出力
b12～b29 チャンネルでは 3 分タイムアウトの制限を受けず、連続送信ができるようになります。ガイドシステムのような送信し続ける必要が有る用途向けですが、通話距離は数十メートル程度まで狭くなります。他人に通話を聞かれるリスクが低くなるので、常に至近距離で通話するときにもメリットがあります。

9: VOX 機能「vo」

設定値 oFF / Lo / Hi（初期値 oFF）※ON 時のアイコン：「☆」

「話すと送信、黙ると受信」のハンズフリー通話ができます。

Lo ： VOX 感度 小（大きめの声でないと送信しません。周りがうるさく、黙っていても送信してしまうようなときにお試しください）

Hi ： VOX 感度 大（小さめの声でも送信します。周りが比較的静かなときはこちらをお試しください）

※VOX 感度を「Lo」に設定しても送信してしまうような騒音の大きい場所では VOX 機能はお使いになれません。

※声を感知してから送信を始めるまでに多少時間がかかるため、音声の始めが途切れて聞こえる場合があります。「了解です、～～～」「はい、～～～」など、用件に入るまでに頭切れしても差し支えない言葉を挟んで話し始めると通話しやすくなります。

10: 操作音量「Sd-voL」

設定値 0 ～ 5（初期値 3）

本体から鳴る操作音の音量を変更することができます。数値を大きくすると音量が大きくなり、「0」に設定するとすべての操作音（キー操作音、各種アラーム音、ベル音など）が鳴らなくなります。

11: サウンド「Sound」

設定値 oFF / on（初期値 on）

本体操作時のビープ音やアラーム音を鳴らないようにできます。

12: エンドピー機能「EndP」

設定値 oFF / on / PP（初期値 oFF）

エンドピーは送信が終わったことをビープ音で相手に伝える機能です。受信信号の強度(レベル)に合わせてエンドピーを鳴らす「エンドピピ」機能はアルインコの特許で、テールノイズキャンセラーまたはグループトークを設定した弊社製トランシーバーからの信号のみ動作を保証しています。

ON ： エンドピー

PTT キーを離したときに「ピッ」と鳴って送信が終わったことを相手に伝えます。「エンドピー」は送信側で鳴るので、他人に音を聞かせたくないときは自分の設定をオフにします。

PP ： エンドピピ

受信終了時に、強いレベルの信号を受信したときは「ピッ」、少し弱いレベルの信号を受信したときは「ピピッ」、非常に弱いレベルの信号を受信したときは「ピピピッ」と鳴ります。「エンドピピ」は受信側で鳴るので、自分がピピ音を聞きたくないときは設定をオフにします。

13: PTT オン／オフ機能「Ptt」

設定値 oFF / on（初期値 on）

送信を禁止する機能です。OFF に設定後 PTT キーを押すと【Ptt oFF】と表示され、送信できなくなります。ユーザーグループの中に「連絡を聞くだけで、返事はしなくてよい」メンバーがいるとき等に使います。

メモ）この「ラジオ」のような無線機は無線通信の用語で「受令機」と呼ばれています。

14: SET キー割り当て「SEt-bt」

設定値 ACH / bCH / EG / Scn（初期値 ACH）

[SET]キーを長押ししたときの動作を選択することができます。長押ししたときの動作だけを変更するため、1 回押しや押しながら起動したときの動作は変わりません。

ACH ： デュアルオペレーション(モード 7)のときの A(メイン)チャンネルを登録します。
bCH ： デュアルオペレーション(モード 7)のときの b(サブ)チャンネルを登録します。
EG ： 緊急通報を使うときに選択します。
Scn ： チャンネルスキャンを使うときに選択します。

※[SET]キーを長押ししたときの動作内容は「DJ-P115R_補足説明書」で詳しく説明しています。

※[SET]キーを長押ししたときの動作が有効になる通話モード：

「EG」：モード 1/モード 5/モード 7
「ACH」「bCH」「Scn」：モード 1/モード 5

以上

アルインコ(株) 電子事業部

DJ-P115R セットモードの拡張について

DJ-P115R 特定小電力中継器には、環境や特定のニーズによってカスタマイズできると便利な項目を「拡張セットモード」に採用しています。一度設定したら変えることが少なく、「故障かな？」と思うような動作をしたりする項目もあるので、敢えて通常のセットモードの操作とは別にしてご説明します。
内容を良くご理解いただいたうえで操作していただきたいので、操作方法は敢えて最後に記載しました。
管理者が行った設定をユーザーが知らずにリセットするリスクを減らすため、これら拡張メニューは設定変更後に再び表示を隠すことができ、通常のリセット操作では初期化されないようになっています。

全セットモード一覧

拡張操作をすると、すべての通話モードですべてのセットモード項目が操作できるようになります。メニュー番号 1～18 までは通常セットモードです。ここでは説明していません。通常セットモードの詳細は別紙「DJ-P115R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

No.	機能	セットモード	選択項目	初期値	種類	詳細内容
1	中継親機チャンネル周波数帯	b rPt-CH	b/A	b	通常 セットモード （中継器）	セットモード 説明書
2	中継アラーム	oFF ALm	oFF/on	oFF		
3	中継ハングアップ	0 HunGuP	0/05/1/2	0		
4	中継自動接続手順	on2 Auto	oFF/on1/on2	on2		
5	中継子機チャンネル周波数帯	A Unt-CH	A/b	A	通常 セットモード （無線機）	
6	コンパンダー	oFF ComPnd	oFF/on	oFF		
7	秘話	oFF ScrbLE	oFF/on	oFF		
8	ベル	oFF bEEL	oFF/on	oFF		
9	ランプ	5 LAmP	oFF/5/on	5		
10	LED	on LEd	oFF/on	on		
11	PTT ホールド	oFF PttHLd	oFF/on	oFF		
12	送信出力	Pow-Hi	Hi/Lo	Hi		
13	VOX	oFF vo	oFF/Lo/Hi	oFF		
14	操作音量	3 Sd-voL	0～5	3		
15	サウンド	on Sound	oFF/on	on		
16	エンドピー	oFF EndP	oFF/on/PP	oFF		
17	PTT オフ	on Ptt	oFF/on	on		
18	SET キー割り当て	ACH SEt-bt	ACH/bCH/EG/Scn	ACH		
19	中継器バッテリーセーブ	oFF rPt-bS	oFF/on	oFF	拡張 セットモード	本書
20	中継器他社互換	50 rPt-ot	0～100	50		
21	スケルチレベル	SqL 3	0～5	3		
22	キーロック時間	Loc 2	1～3	2		
23	電池電圧参照	〇.〇〇	-	-		
24	マイクゲイン	4 m-GAin	1～7	4		
25	バッテリーセーブ	on bS	oFF/on	on		
26	デュアルオペレーション再開時間	5 dUAL-t	1～5(秒)	5		
27	ガイダンス送信時の PTT/マイク設定	oFF micPTT	oFF/on	oFF		
28	ガイダンス送信時のスピーカー設定	oFF SPKoPE	oFF/on	oFF		
29	緊急警報鳴動時間	10 EmG-t	10～60	10		
30	秘話周波数	34 SCr-Fq	27～34(×0.1KHz)	34		
31	秘話エンファシス	on EmPHA	oFF/on	on		
32	グループ選択	ton GroUP	ton/Cd1/Cd2	ton		
33	減電池アラーム（アラーム間隔）	oFF bAtt-C	oFF/5～60(秒)	oFF		
34	VOX ディレイ時間	10 vod-t	1～30（×0.1sec）	10		
35	チャンネル表示	AL CHdiSP	AL/noL/oFF	AL		
36	グループトーク判別精度	2 mG-ton	1～5	2		
37	マイク AGC 切り替え	SL AGC	oFF/SL/FS	SL		
38	AGC ターゲットレベル調整	06 AGC-tG	03～24(×-1dB、 3dB Step)	6		
39	テールノイズキャンセル	on tAiLnC	oFF/on	on		
40	減電池スリープ	on bt-SLP	oFF/on	on		
41	特殊キーロック	oFF Loc-SP	oFF/on	oFF		

19: 中継器バッテリーセーブ「rPt-bS」

設定値 oFF / on (初期値 oFF)

半複信中継器(通話モード r1)の専用バッテリーセーブ機能です。中継動作の反応が遅くなり、頭切れの原因にもなるので通常は初期値の OFF でお使いください。電源の無い現場で仮設使用するなど、バッテリーの消費を極力抑えたいときだけ ON 設定をお試しください。

20: 中継器他社互換「rPt-ot」
設定値 0～100(初期値 50)

DJ-P115R の半複信中継器(通話モード r1)を中継器として使うとき、旧製品や他社製品ではうまく中継動作をしない場合があります。アクセス手順のタイミングが原因の場合、この設定を変えると改善することがあります。通常セットモードの「No.4 中継接続自動手順」と合わせてお試しください。初期設定以外のタイミングにすると、本機や弊社製の現行機種のアクセスが不安定になります。すべての中継障害に有効な設定ではなく、動作保証をするものでもありません。

21: スケルチレベル「SqL」
設定値 0～5 (初期値 3)

FM 電波特有の、通話が無いときに聞こえる「ザー音」(ホワイトノイズ) を消す「スケルチ」の調整です。工場で標準的なレベルに調整してありますが、ノイズが強い環境などで、通話していない時にカサカサと音が出る場合にレベルを上げます。上げ過ぎると弱い信号も消してしまうため、通話距離が短くなったと感じられることがあります。逆にノイズが低い環境では、レベルを低めに設定することで弱めの信号でも受信しやすくなる場合があります。レベルをゼロにすると、常に「ザー」というノイズが聞こえるようになります。
参考) グループトーク機能設定時はレベルをゼロにしてもホワイトノイズは聞こえません。「ノイズ対策にもなる」とグループトークをお使いいただくよう強く推奨しているのはこのためです。

22: キーロックするまでの時間「Loc」
設定値 1～3 秒 (初期値 2 秒)

指定のキーを 2 秒押すとキーロックが掛かりますが、このタイミングを 1～3 秒の間で変更できます。

※キーロックは[FUNC]キー長押しの「簡易」と、[FUNC]と[SET] キー長押しの「通常」の 2 種類があります。

23: 電池電圧表示「(数字)」

お使いのバッテリーパックのおよその電圧を常に数字で表示します。バッテリーが弱ってきたときの数字を覚えておけば、バッテリー残量の詳しい目安になります。(テスターのような精度ではありません、あくまで目安の数値です。) バッテリーが入っていないときは「no bAtt」、充電中は「CHArGE」、充電が完了すると「FuLL」が表示されます。

※電圧以外の表示が更新されるまで、最長約 10 秒かかる場合があります。

※待ち受け時の充電中、充電完了、バッテリー残量の表示は下記をご参照ください。弊社の従来製品とは異なる表示になっています。
充電中　　　　　　　: ディスプレイ右上の電池マーク : 点滅 / LED ランプ : (待ち受け時に) 青色点灯
充電完了　　　　　　: 電池マーク　点灯 / LED ランプ　青色点灯
バッテリーで駆動中 : 電池マーク　点灯 / LED ランプ　青色点灯
バッテリー残量低下 : 電池マーク　点灯 / LED ランプ　青色点滅
バッテリー無し　　　: 電池マーク　消灯 / LED ランプ　青色点灯

24: マイクゲイン調整「m-GAin」
設定値 1～7 (初期値 4)

通話時のくせ (声量、マイクと口の間の距離…) やアクセサリーマイクのゲインなどの都合で、人によってトランシーバーに入る声量は異なります。このため、音が小さい (話す声が小さい＝レベルを大きくする)、音が歪む (声が大きい＝レベルを小さくする) 等が調整できます。適当に設定するとかえって音が悪くなるので、しっかり通話テストをしてからお使いください。

25: バッテリーセーブ「bS」
設定値 oFF / on (初期値 on)

一部の無線機モード(モード 1、5)でのバッテリー消費を最小にするバッテリーセーブ機能は、僅かですが通話の始めの部分が途切れる原因の一つになります。これを少しでも軽減する必要がある特殊用途向けに設けた項目です。バッテリーの消費が早くなるため、通常の用途では変更しないでください。

26: デュアルオペレーション再開時間「dUAL-t」

設定値 1～5（初期値5秒）

デュアルオペレーションモードで通話が終了したあと、交互受信（スキャン）を再開するまでの時間です。初期値は5秒ですが、運用の仕方によっては早い方が便利な時もあります。ニーズに合わせて変更してください。

27: ガイダンス送信時のPTT/マイク設定「micPtt」

設定値 oFF／on（初期値oFF）

ガイダンス送信機能使用時に初期状態のOFFでは[PTT] キーが使えないので通話はできません。この設定をONにすることでガイダンス送信機能使用時でも[PTT]キーを押して送信することができます。

ご注意：
ガイダンス送信と[PTT]キー送信のタイミングが重なると、受信機からは両方の音声が合成された状態で聞こえます。その場合、ガイダンスや連絡の内容が聞き取りづらくなるためご注意ください。
また、ガイダンス送信設定をOFFにしても、ガイダンス音声が入った状態で[PTT]キー送信した場合、同様に両方の音声が合成された状態で聞こえます。

28: ガイダンス送信時のスピーカー設定「SPKoPE」

設定値 oFF／on（初期値oFF）

ガイダンス送信機能使用時に本機のスピーカーを鳴らすかどうかの設定です。初期値OFFではガイダンス音量確認時以外、操作音、ガイダンス音声、受信音は本機のスピーカーでは聞こえません。ONにするとこれらの音が本機のスピーカーでモニターできます。但し受信中やガイダンス送信のときに本機の[PTT]キーで送信すると、ハウリング防止のためこれらの音は自動的にミュートします。

29: 緊急通報時間「EmG-t」

設定値 10～60（初期値10秒）

緊急通報のアラーム鳴動時間と送信時間は10秒に初期設定されていますが、10秒単位（最大60秒）で長くできます。

30: 秘話通信周波数「Scr-Fq」

設定値 27～34（初期値34：3.4KHｚ）

秘話設定のコード（正確には周波数ですが）を変えて、異なる秘話グループを作れます。変更するときは、通話したいグループ全員の設定を同じに揃えてください。

31: 秘話エンファシス「EmPHA」

設定値 oFF / on（初期値on）

弊社製、他社製に限らず特定小電力トランシーバーの秘話通話は機種によって相性があり、音声が聞き取りづらい場合があります。聞き取りづらいと感じたときに、この設定を切り替えると改善される場合がありますが、動作を保証するものではありません。通常は初期値でお使いください。

32: グループトークの種類切り替え「GrouP」

設定値 ton／Cd1／Cd2（初期値ton）

本機のグループトークは一般的な番号方式（トーンスケルチ）の他、DCS（デジタルコードスケルチ）に切り替えることができます。グループ種類切り替えをCd1、Cd2に設定し、通常のトーンスケルチと同様に通常画面で[SET]キーを押すことでDCS番号を設定することができます。番号変更の操作はトーンスケルチと同様に、[FUNC]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押します。通話グループ全員に同じ設定をします。

Cd1:01～83の83通りのコード番号から選択できます。運用時はチャンネルと2桁のDCS番号を表示します。

Cd2：Cd017～Cd754の108通りのコードから選択できます。運用時はチャンネルとCdを表示、[FUNC]キーを短く押すとCdと3桁のDCS番号を確認できます。[FUNC]キーを長く押しているとキーロック操作になるのでご注意ください。

※DCS の設定が有効な通話モードは通話モード r1、1、5、7 です。それ以外のモードでは決められたチャンネルグループで動作するため設定することはできません。また、半複信中継子機(通話モード 5)のときのリモコン設定で DCS を設定していると正常にリモコン動作できません。DCS を設定して中継動作するには、対応中継器本体を操作してください。

33: 減電池アラーム時間「bAtt-C」

設定値 oFF / 5～60 秒 (初期値 oFF)

LED ランプの減電池表示（青色点滅）とともに設定時間ごとに 1 回、バッテリーが減っていることをアラーム音でもお知らせできます。音を鳴らす電力が消費されるため、アラーム間隔を短く設定するほど早くバッテリーが切れます。

34: VOX 送信持続時間「vod-t」

設定値 01～30 (初期値 10 : 1.0 秒)

VOX で送信したとき、音声が途切れても初期値では 1 秒間送信状態を保持するので、短い息継ぎをしても途切れません。この時間を 0.1 秒～3.0 秒に変更できます。送受信の切り替えをテキパキと行いたいときに、設定を短めにすると使い勝手が向上しますが、黙るとすぐ送信が落ちることもあり、十分に動作確認をしてからお使いください。

35: チャンネル表示変更・非表示「CHdiSP」

設定値 AL / noL / oFF (初期値 AL)

弊社製品のチャンネル表示は L01～L09、b01～b11 です。チャンネル表示設定を noL に変更することで 01～20 表示に変更することができます。他社製で、これに近い表示をしている機種のチャンネルに合わせやすくします。

AL	noL
b01～b11	01～11
L01～L09	12～20
b12～b29（中継）	01～18（中継）
L10～L18（中継）	19～27（中継）

OFF を選ぶとチャンネルを非表示（－－－－－－）にでき、別のユーザーからどのチャンネルで通話しているか見られずに済みます。非表示にしているときはチャンネルとグループ設定の変更はできません。
再設定する場合はチャンネル表示を AL または noL にしてください。

36: グループトーク判別精度「mG-ton」

設定値 1～5 (初期値 2)

・他社製や弊社製の旧型機と混用すると、グループトークができないことあります。最新の部品を採用する本機はグループトーク信号の読み取り精度が非常にシビアで、少しでもズレた信号には反応しないことから起こる「相性問題」です。
・この設定を変更する前に、相性問題が起きにくい 10 番～37 番の間で全体が動作するグループトーク番号を探してみてください。どうしても上手くいかないときだけ、判定精度をわざと甘くするこの項目をお試しください。1 が最も厳しく、5 が甘くなります。甘くし過ぎると近い番号のグループ信号でもスケルチが開くことがあり、テールノイズキャンセル機能も働かなくなるので、スケルチが切れるときの「ザ！」ノイズが聞こえます。初期値の 2 は、かなりシビアに判定します。

37: マイク AGC 切り替え「AGC」

設定値 oFF / SL / FS(初期値 SL)

マイクに大きな声が入った場合、通話音声が歪むことがあります。この歪みを緩和するのが AGC（自動ゲイン調整）で、大きな声を検知したときにゆっくり緩和させる低速「SL」と瞬時に緩和させる高速「FS」の 2 種類から選べます。他社製や旧機種と混用する場合、通話品質の相性問題を解決できることがありますが、逆に音が悪くなることもあります。複数の機種が混在するときは全部の機種で音質を確認してください。

38: AGC ターゲットレベル調整「AGC-tG」

設定値 03～24 (初期値 06)

マイク AGC 設定を入れたときに、歪みを緩和させる音量のポイントを調整することができます。
設定する数値を小さくすることで、より大きい声のときの歪みを緩和させます。逆に数値を大きくすると小さい声の歪みを緩和することができますが、相手に自分の声が小さく聞こえます。これも前項同様、受信側の機種との相性も含めて、下手にいじると逆に送信音を悪くすることがあるので必ず実験してからご使用ください。

39: テールノイズキャンセル「tAiLnC」
設定値 oFF / on（初期値 on）

グループトーク機能を入れていなくても、通話終了時に受信側から聞こえるテールノイズ（受信から待ち受けになるときの「ザ！」という短いノイズ音）を除去する「テールノイズキャンセル機能」のオンオフです。テールノイズキャンセル機能は送信側と受信側の両方が有効なときのみ動作するので、この機能が入っていない無線機と通話すると設定にかかわらずテールノイズは聞こえてしまいます。弊社製の対応機種どうしで使う場合、初期値を変える必要はありません。

40: 減電池スリープ「bt-SLP」
設定値 oFF / on（初期値 on）

バッテリーパック使用時、適正な充電をしないと起きる過放電はバッテリーパックの劣化や充電不良の原因になります。これを防ぐためバッテリーの電圧が一定レベルまで低下すると、初期値の ON では自動的にスリープ（省電力状態）に切り替わります。OFF にするとバッテリーを最後まで使い切ることができますが、大きな差ではありません。特殊な理由が無ければ ON でお使いください。

※いずれの設定でも待機電流は発生するので、充電できる環境になったらすぐに充電してください。
バッテリーパックを使わないときは本体から取りだして、涼しい乾いた直射日光が当たらない場所に保管してください。満充電でも放電でもない、50%程度が保存に理想的な充電状態です。

41: 特殊キーロック「Loc-SP」
設定値 OFF／ON（初期値 oFF）

DJ-P115R は中継器モードでも受信音声のボリュームが変更でき、[PTT]キーで送信することができます。
これらの機能を使わず、第三者が触れられるような環境に設置するときは、この項目で特殊キーロックを掛け、キーロック解除以外の操作を禁止しておくことをお勧めします。受信音量や[PTT]操作はできなくなります。

この設定を ON にすると、 [SET]キーと[FUNC]キーの両方を長押しする通常キーロックが「LoC-2」から「LoC-SP」に変わり、特殊キーロックが有効になります。同じ操作でキーロックを解除できます。

※この設定と同時に、拡張セットモードの「No.24 キーロック時間」を長くすることで、一層いたずらや誤操作を防ぐことができます。

[セットモード拡張方法]
1：キーロックを掛けます。（2 つあるうちの、どちらの方法でも構いません。）
2：[SET]キーを 5 回連続で押します。10 秒以内に 5 回押さないと有効になりません。
キー操作が有効であれば「ピピッ」とビープ音が鳴ります。
3：自動的にキーロックが解除されます。
4：セットモードに入るとすべてのメニューが追加されています。通常のセットモードと同様に操作します。
＊上記 1～4 の操作を繰り返すと、変更した値を保存して拡張メニューを隠すことができます。

[拡張項目のリセット]
＊ チャンネルや通常のセットモードも含んで、全てを工場出荷状態まで初期化するには、アダプターを抜いて電源を切った後[▼]、[▲]、[FUNC]キーの 3 つ全てを押したままでアダプターを差し込んで電源を入れます。画面が全点灯したら指を離します。「r1b L10」で起動したら工場出荷状態です。

＊ 説明書に記載のリセット（FUNC キーを押しながら電源を入れる）では拡張セットモードは閉じず、設定した値も初期化されません。拡張セットモード以外の設定だけが工場出荷状態に戻ります。

以上

アルインコ（株）電子事業部

DJ-P115R 補足説明書

DJ-P115R 特定小電力中継器は中継器機能以外にトランシーバーとしても使用できる多彩な通話モードを搭載しています。本書では製品に付属の取扱説明書には敢えて記載していない通話モードの詳細について説明します。

●トランシーバーの通話モード一覧と設定方法

① トランシーバーモードにする

・付属品の AC アダプターを AC100V のコンセントに接続します。まだ本機にはプラグは接続しません。
・[SET]キーを押したままで AC アダプターのプラグを本機に接続すると、ディスプレイに「SEt t-modE」が表示され、ディスプレイ左側のモード番号表示が点滅します。この表示が出たらすぐに指を離してください。押し続けたままにすると、ACSH モード（付属取扱説明書の記載機能）が動作します。

② 通話モードを選ぶ / 共通：「使用するチャンネル」は選択したモードに合うものが自動で設定されます。

[▼]または[▲]キーを押して通話モードを選択します。

通話モード	使用するチャンネル	モード番号表示	参照する取扱説明書
半複信中継器	L10～L18、b12～b29	r1	製品に同梱
交互通話	L01～L09、b01～b11	1	本書
半複信中継子機と中継器リモコン操作	L10～L18、b12～b29	5	本書
デュアルオペレーション	L01～L09、b01～b11 L10～L18、b12～b29	7	本書
最適チャンネルサーチ	L01～L09、b01～b11 L10～L18、b12～b29	8	本書

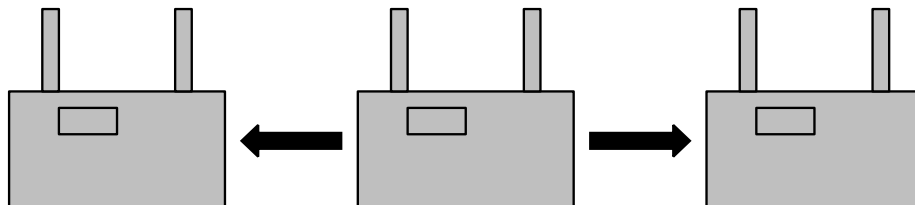
③選択したモードを確定する

・[PTT]キーを押すと、ピ！と設定音が鳴り、左側の表示が点灯に変わります。
・通話モードを変更するときは、AC アダプターのプラグを抜いて、上記①から繰り返し操作します。
電源を切っても（アダプターや電池を抜く）、次回に電源が入るとこの通話モードで起動します。

●各通話モードの操作方法

通話モードを確定してからの操作方法です。一部記述を省略していますが、ランプの点灯色は共通で、青がスタンバイ（待ち受け）、緑が受信中、赤が送信中です。

①交互通話

トランシーバーではもっとも基本的な通話モードです。チャンネルとグループトーク番号が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも通話できます。電波が届く範囲に居れば、一人の話し声を何人でも聞くことができます。

チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、ユーザー全員が同じになるように合わせます。
・[SET]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押すとチャンネルが変わります。
・同じグループの人とだけ通話したいときはグループトーク機能も設定します。ノイズを聞こえにくくする効果も期待できます。 [SET]キーを１回押すとディスプレイ右側にグループ番号が表示され、機能がオンになります。もう一度押すとオフになり番号は消えます。
・グループ番号表示中に[FUNC]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押してグループ番号を選びます。

他社機や、アルインコ製でも生産を終了しているような古いトランシーバーが混在するとき、番号は 02～37 番の中から選びます。それ以外ではグループ信号の読み取り精度の違いからくる相性問題で、通話できないことがあります。01 番は多用され、混信しやすいのでお勧めしません。

音量を調整する。

- [▼]または[▲]キーを押すと音量を 0 ～ 30 までの 31 段階で調整できます。
- キーを押すごとにプ！とビープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビープ音よりはるかに大きくなります。
- [▼]と[▲]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。本機の最大音量は３W と大きいため、大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
- この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

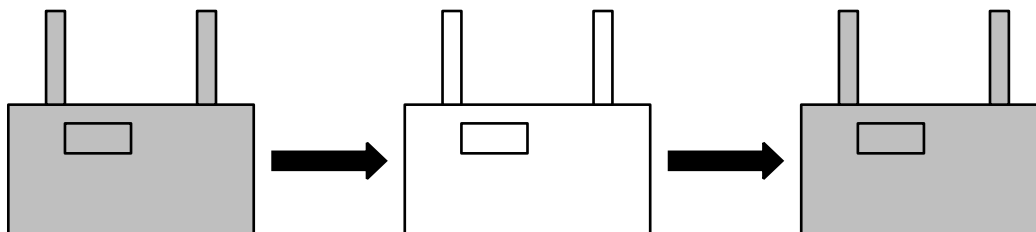
通話する。

信号を受信するとディスプレイの 受 が点灯し、スピーカーから相手の声が聞こえます。
送信するときは[PTT]キーを押したままマイクに向かって話します。送信中はディスプレイに 送 が点灯します。話し終わったら[PTT]キーを離します。マイクと口の間の距離は使用者の声量で変わるので、相手に聞いてもらい調節します。

コールトーン機能

送信中に[▼]キー、[▲]キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

②半複信中継子機と対応中継器のリモコンモード

半複信方式の中継器（DJ-P115R の出荷状態設定）にアクセスする子機の通話モードです。中継器を介することで、直接では電波が届かない相手と通話することができます。チャンネルやグループトーク番号 が同じであれば、他の特定小電力トランシーバーとも中継通話できますが、他メーカー製や新旧の機種と混用すると相性問題で通話できないことがあります。またこのモードでプログラムした内容を、対応する弊社製中継器に転送して無線で設定変更ができるリモコンとしても使えます。

チャンネルとグループ番号を合わせる

チャンネル番号とグループトーク番号は、中継器と同じになるように合わせます。アルインコの中継器を基本設定で使用中は、５の後の A は変更しないでください。特殊な設定や他社製中継器などの場合、必要に応じてセットモードで B に変更できます。

- [SET]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押すとチャンネルが変わります。
- 混信させないよう、中継器にはグループトーク機能が設定されていることがほとんどです。 [SET]キーを 1 回押すとディスプレイ右側にグループ番号が表示されグループトークが動作します。表示中に[FUNC]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押してグループ番号を選びます。他社機や、アルインコ製でも生産を終了しているような古いトランシーバーが混在するとき、グループトークに使われる信号の読み取り精度の違いからくる相性問題で通話できないことがあります。グループ番号を 02～37 番の間で変えて、全体が使える番号を探すと解決することがあります。01 番は多用されているので別の番号をお勧めします。
- もう一度[SET]キーを押すと機能がオフになり、番号は消えます。

音量を調整する

- [▼]または[▲]キーを押すと音量を 0 ～ 30 までの 31 段階で調整できます。
- キーを押すごとにプ！とビープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビープ音よりはるかに大きくなります。
- [▼]と[▲]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
- この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

送信/受信する

信号を受信すると「受」とランプが緑に点灯してスピーカーから相手の声が聞こえます。
[PTT]キーを押したまま、マイクに向かって話します。話し終わったら指を離します。送信中はディスプレイに「送」、ランプが赤に点灯します。セットモードで PTT ホールド機能をオンにすれば指を離しても送信状態を保持するハンズフリー通話ができます。

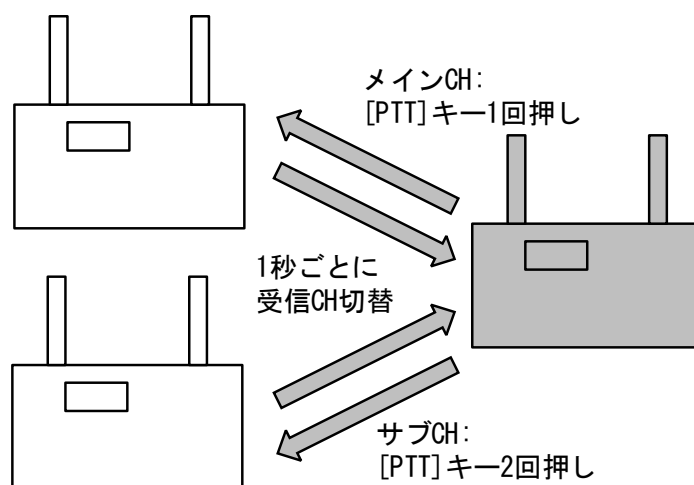
コールトーン機能

送信中に[▼]キー、[▲]キーのいずれか、または両方を押すと音色の異なる呼び出し音が鳴り、相手に注意喚起することができます。

対応中継器のリモコン変更操作

対応する中継器のチャンネル、グループ番号その他の設定を無線で中継器に送り、設定変更できます。
- チャンネル、グループ番号、「自動接続手順」、「ハングアップタイマー」、「アラーム」をリモコン設定できます。別紙「セットモード詳細説明書」をご参照のうえ、転送したい内容を本機にプログラムします。
- [▼]と[▲]キーを同時に 3 秒以上押し続けるとディスプレイに「Snd rmo-ST」が表示され、データ転送を始めます。
- 対応中継器の説明書を参照して、中継器をリモコン受信できる状態にします。半複信中継器モードにした DJ-P115R の場合は AC アダプターを抜き挿しします。起動時 10 秒間リモコン受信状態になり「rEmCon」が表示されデータを受信し始めます。
- 転送が終わるとディスプレイに「〇〇〇〇〇〇」が表示され、中継子機に戻ります。中継器はリモコンからのデータ転送を受信すると 10 秒以内に完了します。
- 途中で止める場合は[PTT]キーを押します。転送をキャンセルして中継子機に戻ります。中継器側には一切の変更は反映されません。

③デュアルオペレーション

交互・交互中継通話モードでメイン/ サブの 2 つのチャンネルを交互に受信、そのどちらとも通話できるモードです。あらかじめ専用メモリーチャンネルにメインとサブチャンネルを登録して使います。
参考： 全員に設定すると、だれがどちらの CH をスキャン中かわからず、通話しにくくなります。この機能は例えば 2 つの通話グループを管理する責任者だけに設定して、その人が必要に応じて通話したいグループを選んで呼び出すようなときのものです。自由に 2CH を使えるようにするものではありません。

【設定前のご注意】
- メモリー登録する際は、セットモードの「SET キー割り当て設定」項目を「ACH」、「bCH」にします。詳しい操作方法や内容は「DJ-P115R セットモード詳細説明書」をご参照ください。
- このモードを使用中、スキャン機能は動作しなくなります。また、登録後に緊急通報を ON に設定するとチャンネルの状態にかかわらず常にメイン側で発報するようになります。
- メイン／サブチャンネルが正しく設定されていないと「－ － － － － -」が表示され、メインとサブが同じチャンネルだとエラーの「E」表示が点滅してデュアルオペレーションは動作しません。必ず別のチャンネルに設定してください。

メイン側/Ａのチャンネルを登録する

・通話モードを交互通話(モード 1)または半複信中継子機(モード 5)にして、FUNC キーを押したまま SET キーを何度か押し、ACH SEt-bt 表示にします。(セットモード項目、SET キー割り当て) 初期状態は ACH ですが､bCH や EG などが表示されたら[▼]または[▲]キーで ACH にします｡PTT キーを押して確定します。

・メインにしたいチャンネルとグループトーク番号を設定します。
・[SET]キーを 3 秒以上押し続けるとディスプレイに「ACH writE」が表示されます。

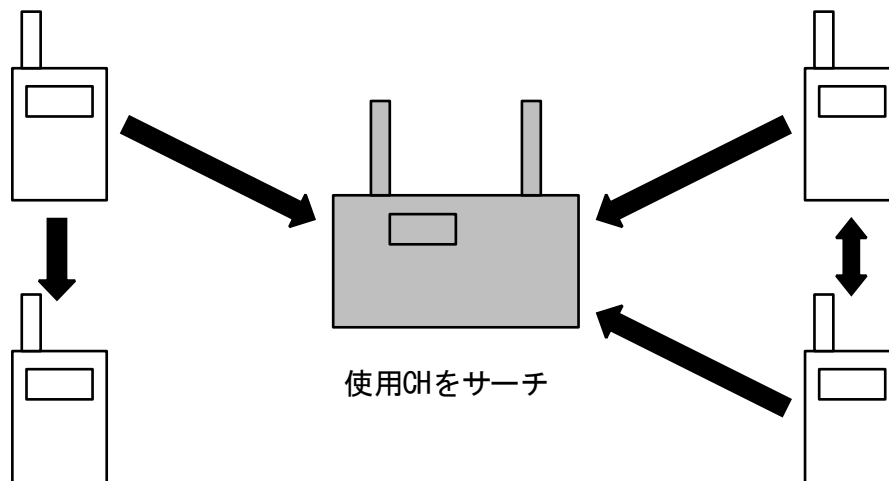
サブ側/Ｂのチャンネルを登録する
・同じ操作を繰り返して、セットモードの ACH SEt-bt を[▼]または[▲]キーで「bCH」に変更します。
・サブチャンネルの番号とグループトーク番号を設定してから[SET]キーを 3 秒以上押して、「bCH writE」を表示させます。

登録後、通話モードをデュアルオペレーション（モード 7）にします。1 秒間隔で登録したメインとサブチャンネルのスキャンが始まります。

音量を調整する
・ [▼]または[▲]キーを押すと音量を 0 ～ 30 までの 31 段階で調整できます。
・ キーを押すごとにプ！とビープ音が鳴り、数字が大きくなるほど音も大きくなりますが、実際の音量はビープ音よりはるかに大きくなります。
・ [▼]と[▲]キーを同時に押すと「ザー」というノイズが聞こえ、実際の音量が確認できます。大きなボリュームレベルでの確認時は耳を傷めないようご注意ください。
・ この音量設定は中継器モードとは別です。ここでの調整は中継器モード時の音量に反映されません。

通話する
信号を受信するとそのチャンネルでスキャンが止まります。
ディスプレイの 受 が点灯しスピーカーから相手の声が聞こえます。相手の送信が終わって 5 秒以内に別の信号を受信しないとスキャンを再開します。この待機時間はセットモードで変更できます。
・メイン側チャンネルで送信するときは、通常どおり[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。
・ サブ側チャンネルで送信するときは[PTT]キーを短い間隔で 2 度押して、2 度目で[PTT]キーを押しながらマイクに向かって話します。送信中はディスプレ送に　が点灯します。
いずれも PTT キーを離すと受信に戻り、設定時間（初期値約 5 秒）が過ぎるとスキャンを再開します。

④最適チャンネルサーチ

混信などを避けるため、せっかく設定したトランシーバーのチャンネルをたびたび変えるのは面倒です。この機能は全ての特小無線チャンネルを長時間自動でスキャン（サーチ）して、その CH の使用頻度を表示するものです。前もってどの CH が一番空いているか調べておけば、特に中継システムのように設定項目と台数が多い環境で、余計な設定変更の手間が省けます。

サーチする
通話モードを最適チャンネルサーチ（モード 8）に切り替えるか、モード 8 で AC アダプターを挿して起動すると自動的にチャンネルが 0.5 秒ごとに切り替わり、サーチを始めます。全 47CH を 40 秒弱で一周します。

使用頻度を確認する
・[PTT]キーを 3 秒以上押し続けるとサーチを停止します。サーチ停止中に[SET]キーを押しながら[▼]または[▲]キーを押すとチャンネルが変わり、CH 番号の右にサーチ中に信号を受信した回数を表示します。**回数表示が少ない＝混信が少ないチャンネル**です。最大のカウント表示数は 250 で、それ以上は増え

ません。0に戻って再カウントすることはありません。
・PTTを3秒長押しするとサーチを再開できますが、前回の結果は初期化されます。記録は残らないのでメモを取るなどしてください。

【参考】
使用場所の営業日と営業時間に合わせて、なるべく多くの回数、なるべく長い時間をかけてサーチします。

・通話する人が一番多く居るエリア、通話したいエリアの中央、中継器を設置する場所など、一番無線システムを実用する場所に本機を置いてサーチするのが基本です。特小無線は微弱電波なので少し場所が変わるだけで混信状態が変わるためです。

・通話エリア内に、離れた複数の多用場所（厨房とホール、レジとバックヤード…）があるときは全部の場所をサーチしてください。片側のエリアだけが混信を多く受けることがないか、確かめるためです。

・周囲に特定トランシーバーを使いそうな場所（スーパーや量販チェーンなど中規模店舗、飲食店、クリニック、ヘアサロン、ケータイショップ、工事現場…）があれば、それらの営業時間、作業時間に合わせてサーチします。時間帯を分けて複数回サーチすればさらに効果的です。

【ご注意】
・窓際や通話エリア内で一番見通しの良い場所に置くと、遠くからの電波を拾いやすくなります。実用エリア内のサーチではカウント数が低くても、目安として「ここは使っている可能性が高いな…」と判断できるので、他にも空いたCHがあればそちらを選ぶ方が混信を受ける可能性が低くなります。

・本機能はあくまで目安としてお使いいただくものです。たまたまサーチした日は近所のユーザーの定休日だった、その日だけ近くで工事があった、というようなことは良くあるため、サーチによる空きチャンネル判定の精度は保証できません。

・使用頻度が高いと判定されたチャンネルの上下のチャンネルは、使用頻度が「0」でも実用を始めると混信しやすい可能性があります。
（例：L05に使用頻度が高い数値が出たら、L04、L06の頻度が低くても避ける。）

・チャンネル「L01」「b01」「L10」「b12」はメーカーを問わず初期値のチャンネルに設定されがちです。
このため、このまま使うユーザーが非常に多いことから、これらのチャンネルはサーチの結果にかかわらず避けておくことをおすすめします。

・最適チャンネルサーチ中はバッテリーセーブが動作しません。オプションのバッテリーパックご使用の際はバッテリーの消耗にご注意ください。

●その他機能について

①緊急通報
本機を簡易的な緊急通報機器として使用する機能です。トランシーバーとして使用中、アラーム音を鳴らして相手に緊急を通報します。通話モードの交互通話(モード1)、半複信中継子機（モード5)、デュアルオペレーション(モード7)でお使いになれます。デュアルオペレーションでは常にメイン側のチャンネルに発報します。

緊急通報を有効にする
FUNCキーを押したままSETキーを何度か押し、SEt-bt項目にします。(セットモード項目、SETキー割り当て）初期状態の表示はACH SET-btです。[▼]または[▲]キーを何度か押してEGにして、PTTキーを押して確定します。詳細内容は別紙「DJ-P115Rセットモード詳細説明書」をご参照ください。

緊急通報を発報する
・[SET]キーを3秒以上押し続けると「EmG-on」が表示されピロピロ…と緊急アラーム音を10秒間送信します。信号を受信した相手機もこのアラーム音が鳴ります。
・拡張セットモードの「緊急通報鳴動時間」を変更することでアラーム音の時間を10〜60秒に変更することができます。

②チャンネルスキャン
自動的に受信チャンネルを切り替えて信号を探す機能です。信号を見つけるとスキャンが止まり、信号がなくなると再開します。本機能は通話モードの交互通話(モード1)、半複信中継子機(モード5)でお使いになれます。(それぞれのモードで使えるチャンネル範囲だけをスキャンします。)

チャンネルが空いているエリアでは別の特小ユーザーが近くにいるかどうか、混み合っているエリアでは空いたチャンネルを素早く探すのにお使いください。

チャンネルスキャンを有効にする
FUNC キーを押したまま SET キーを何度か押し、SEt-bt 項目にします。（セットモード項目、SET キー割り当て）初期状態の表示は ACH SET-bt です。[▼]または[▲]キーを何度か押して「Scn」にして、PTT キーを押して確定します。詳細は別紙「DJ-P115R セットモード詳細説明書」をご参照ください。

チャンネルスキャンを開始/停止する
[SET]キーを 3 秒以上押し続けるとスキャンが始まりチャンネルが自動的に切り替わります。信号を見つけるとスキャンは停止して受信を始め、信号がなくなると自動的にスキャンを再開します。スキャンを停止するときは[PTT]キーを押します。（注：受信時間を設定する「タイムスキャン」は採用していません。）

注）・スキャン中はバッテリーセーブが動作しません。オプションのバッテリーパックで運用時に多用すると電池の減りが早くなります。

以上

アルインコ（株）電子事業部